

「雲珠」発見記念 春のシンポジウム

## 古代日本における九州と大和

### ——宇佐の位置づけ、邪馬台国論争再論——

昨年 11 月、戦前以来の本学の教材の中に、手向山八幡宮の唐鞍からくらの一部とみられる「雲珠」が混じっていることが判明しました。大学院 G P の「実践スキルゼミナール」の一環として開催した『歴史教育の風景—奈良女子高等師範学校の残したもの—』と題する展示会の準備作業中での発見でした。現在国宝に指定されている手向山八幡宮の「雲珠」よりも、もしかしたら古いかもしれないとされる貴重なものです。それが今回、春の記念館の公開に合わせて展示・公開されることになりました。そこで我々としても、春と秋、二度にわけて、その「雲珠」発見の意義を問うてみることにしました。まず一回目は、そもそも手向山八幡宮はなぜ重要なのか、九州宇佐に発する八幡信仰の歴史的な位置づけを行ってみること。そして二回目は、なぜ「雲珠」が奈良女子大学に伝来したのか、その謎を教育史的観点から解明して見ることにしました。今回は、その一回目です。ご参加を賜れば幸いです。

報告者

#### 若井敏明（関西大学）

主著『邪馬台国の滅亡—大和王権の征服戦争』（吉川弘文館、2010 年）

#### 小路田泰直（奈良女子大学）

主著『邪馬台国と「日本人」』（平凡社新書、2001 年）

司 会

#### 杉原慶子（奈良女子大学大学院生・雲珠発見者）

日時・場所

2010 年 5 月 3 日午後 1 時～4 時／文学部北棟 N-101 教室

主催：奈良女子大学大学院教育改革支援プログラム「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」：プログラム科目「実践スキルゼミナール古文書調査実習」

連絡先：奈良女子大学文学部小路田研究室（0742 - 20 - 3311）